

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立洛北中学校

令和7年4月に、本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果をまとめました。本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、家庭生活・学校生活に関する調査も実施されています。学習の様子や生活習慣など、本校の3年生の状況をお伝えします。

### 総合結果（国語・数学・理科）

国語・数学は、全国平均を少し上回る結果となり、理科は全国平均とほぼ同じ結果になりました。どの教科においても、「知識・技能」を問う問題、「思考・判断・表現」を問う問題のどちらにもしっかりと取り組み、解答することができていました。記述式の問題の無回答率については、全国平均より少ないものの少し目立ちました。諦めず問題に取り組もうという姿勢はあるものの、時間がなかったり根拠がわからなかったりして、記述できなかったと考えられます。様々な形式の問題に対応する力は、義務教育修了後も必要となる力です。問題文を素早くしっかりと読み込み、問題の趣旨を理解したうえで、条件に合わせて適切に解答することが求められます。今後も、多様な問題に取り組むなかで、身に付けた知識や技能を活用し、思考力を働かせて解答を導くことを積み重ね、着実に力をつけていってほしいと思います。

### 国語科より

本校生徒の平均正答率は、全国の平均正答率を1.7ポイント上回る結果となりました。すべての領域において全国平均を上回っており、特に「読むこと」、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の領域において力がついてきました。一方で「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、全国平均より0.8ポイント低く、語彙力といった基本事項の定着をより図っていく必要があると考えられます。問題別の解答率や正答率をみると、特に、記述形式の問題に取り組む度合いが高く、「書くこと」に対する意欲が高いことが考えられます。全国平均に比べても無回答率が低く、記述問題に対して向き合う姿勢を持っている生徒が多いことがうかがえます。それに伴って正答率も平均を上回っており、日々の授業課題における成果が表れているものと考えられます。

### 数学科より

本校生徒の平均正答率は、全国の平均正答率を4.7ポイント上回る結果となりました。問題別に結果をみると、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4領域において、全国と比較して1.1～7.4ポイント上回っており、その中でも、「図形領域」は7.4ポイント、「データ活用」は7ポイント上回っていました。しかし、「数と式」は1.1ポイント上回るにとどまり、「数と式」では特に分数に苦手意識を持つ生徒が多いのではないかと考えられます。

評価の観点別でみると、「知識・技能」の観点が全国平均より2.7ポイント上、「思考・判断・表現」の観点が全国平均(39.1%)京都府(40.2%)より7.6ポイント上となっていました。「思考・判断・表現」の観点に関する問題について、出題の仕方に注目してみると、「根拠を明確にして説明する」という記述式の問題がほとんどとなっています。平均から考えるとこの観点が本校生徒の強みとはなっているものの、全国平均があまり高くなく、「筋道を立てて物事を考える・説明できる」といったことは今後の社会生活には必要な力だと思います。なぜそうなるのか、どんな理由からそう考えたのかといったことを日常から明確にする意識を持つといいでしょう。

### 理科より

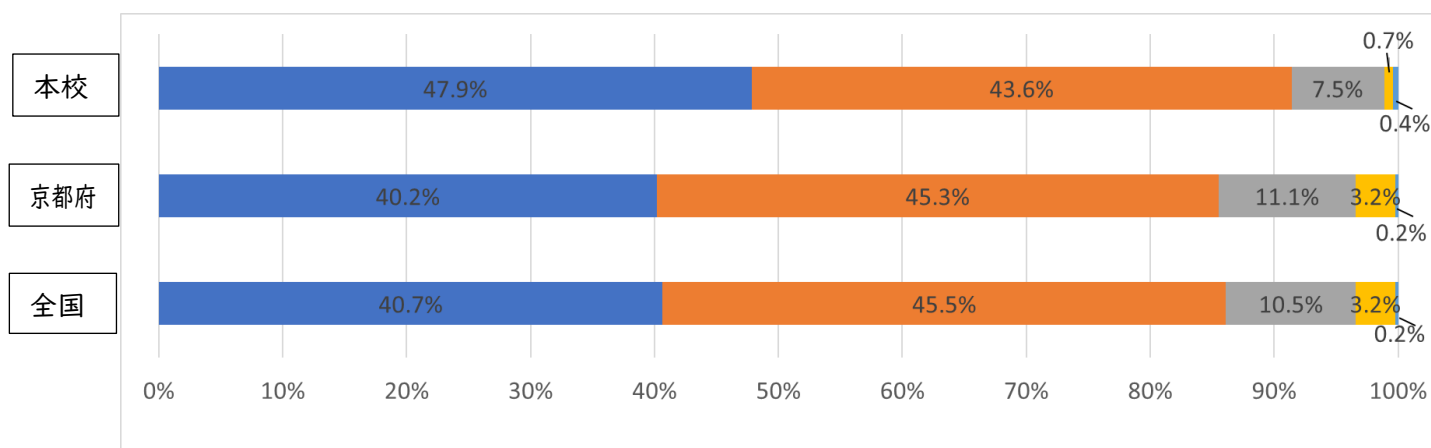
本校生徒の正答率は全国平均や京都の平均と、およそ同水準の結果となりました。問題別に結果を見ると、「生活との関連」を考える問題や「実験の技能」を問われる問題で正答率が高い傾向が見られました。一方で「元素記号」や「データの活用」の問題では、全国的に正答率が低くなっている傾向に準じて、本校でも他の問いと比較すると正答率が低い傾向が見られました。

以上の結果から本校生徒は実験の技能は身につけている生徒が多く、また、身につけた知識を経験則に基づいて実生活に落とし込むことができていますと考えられます。一方で基本的な知識の定着、また、その活用には課題があることも今回の結果から読み取れます。授業の場面やテストなど、学んだ知識を活かす取り組みを進めることが必要だと考えます。

### 生徒質問紙より

#### ■自分にはよいところがあると思いますか？

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない  
■ 当てはまらない ■ 無回答



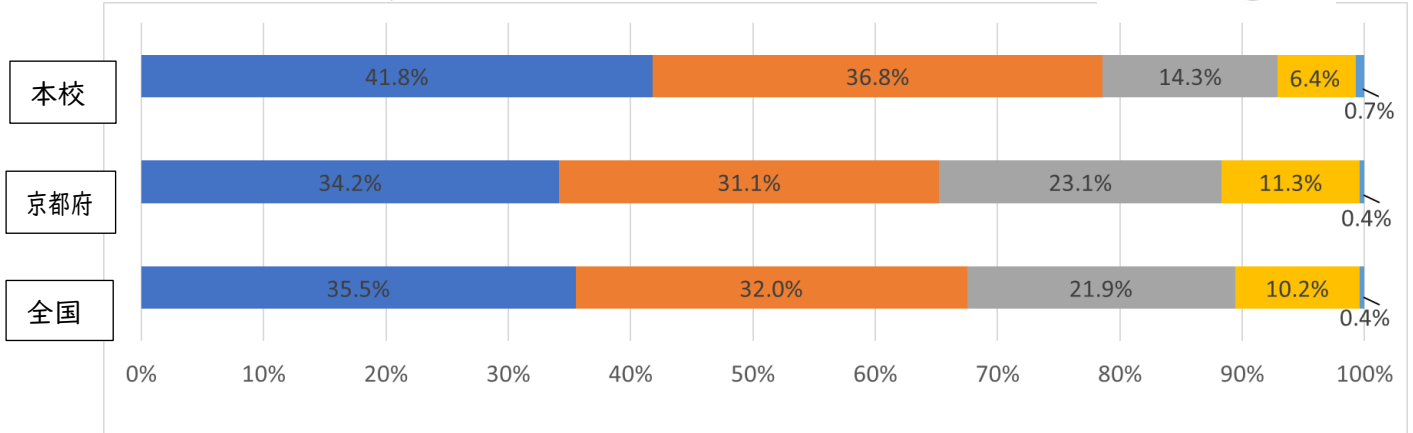
「当てはまる」と答えた生徒の割合が、京都府の平均より7.7ポイント、全国の平均より7.2ポイント高く、91.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答をしていることから、多くの生徒が自己肯定感をもっていることが見て取れます。本校の学校教育目標のキーワードである「協働（尊重）」「自律（自立）」「創造（探究）」を柱に様々な教育活動を展開するなかで、「やればできる」「誰かの役に立っている」という経験を積み重ねてきたこと、ご家庭や地域とともに生徒たちの良いところを認め伸ばす教育を推進してきたことが、自己肯定感の高まりに繋がったといえます。

自己肯定感が高いと、「自信をもって行動に移すことができる」「失敗を恐れず前向きに取り組むことができる」「他者と良好な関係を築くことができる」といった強みとなり、自分も周囲も大切にして豊かな人生を歩んでいくことに繋がります。これからも、ご家庭とともに、生徒の自己肯定感を育む教育活動を推進していきたいと考えています。



## ■将来の夢や目標をもっていますか？

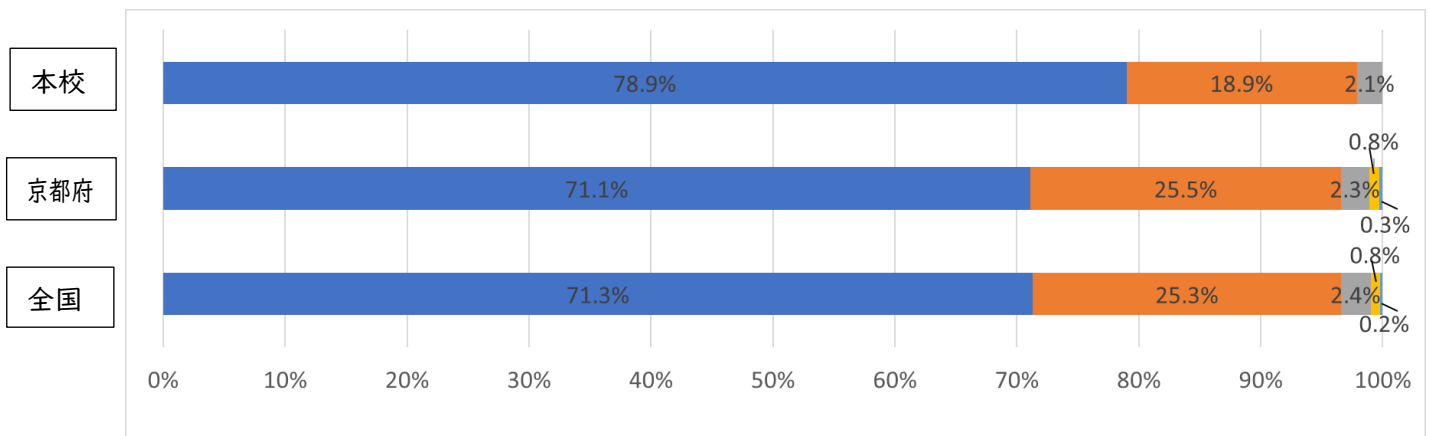
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない  
■ 当てはまらない ■ 無回答



「当てはまる」と答えた生徒の割合が、京都府平均より7.6ポイント、全国平均より6.3ポイント高く、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は、78.6%でした。京都府や全国平均よりは、「将来の夢や目標をもっている」生徒は多いですが、約20%の生徒は将来の夢や目標が見つからないことがわかります。目先の進路選択の指導に留まらず、生徒自身が将来の生き方について自分と向き合っ  
てしっかり考え、夢を広げていくことができるよう、「キャリア教育」の充実を図っていく必要があると考えます。

## ■人の役に立つ人間になりたいと思いますか？

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない  
■ 当てはまらない ■ 無回答



「当てはまる」と答えた生徒の割合が、京都府・全国平均より7.8ポイント高く、97.8%を超える生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答をしていることがわかります。「人の役に立つ人間になりたい」という思いをもって、自分自身の成長のために努力したり、今後の生き方についてしっかりと考えたりすることができていると言えます。

義務教育修了後、人を思いやり、「役に立ちたい」「仲間と協力して成し遂げたい」と思う心を大切にして、よりよい社会の創造に積極的に関わってほしいと願っています。